

平成 17 年国勢調査の独自集計による分析

1 目的

地方分権が進展し、地域の実情に応じた施策の推進が求められている中、データの宝庫である国勢調査について、県独自の視点による集計・分析を行い、高齢者対策、少子化対策など県および市町の重要施策に活用する。

*独自の視点による集計・・・国の公表結果を元にした「加工集計」と調査票データを独自に集計する「独自集計」をいう。

2 分析テーマ

平成 18 年度 第 1 次基本集計分
人口、世帯、住居、外国人、高齢者世帯等の集計

平成 19 年度 第 2 次基本集計分
福井県の労働状況
子供のいる世帯の傾向

3 平成 19 年度 分析結果の概要

(1) 分析のポイント

福井県の労働状況

- ・これまであまり分析されてこなかった県内市町レベルの分析
- ・福井県時系列分析、都道府県分析を併記
- ・近年、急増している外国人労働者の状況を詳しく分析

子供のいる世帯の傾向

- ・県内全世帯のデータを県独自に集計
- ・世帯構成（核家族世帯、三世帯世帯）、夫婦の就業状況等別に子供の数の多い世帯、少ない世帯の傾向を分析

(2) 分析結果の概要

第1章 福井県の労働状況

1 福井県および県内市町の労働状況

- ・福井県の女性就業率は全国1位。嶺北地方の女性就業率は極めて高く、嶺南地方はほぼ全国平均。
- ・福井県は全国に比べ、役員や個人業主、家族従業者の割合が高く、臨時雇用者の割合は最も低い。
- ・嶺北地方の女性の臨時雇用者の割合が特に低い。
- ・常用雇用者の割合は、嶺南地方の男性、奥越を除く嶺北地方の女性の割合が高い。

*臨時雇用者・・・日々又は1年以内の期間を定めて雇用されている人。主に、アルバイトやパートの方。

2 外国人労働者の状況

- ・福井県は外国人就業者が多い（就業者に占める外国人就業者の割合は全国9位）。
- ・外国人労働者は、10年間（平成7年～17年）で1.5倍に急増。特に「中国」国籍の労働者が最も多い。
- ・市町別に就業者に占める外国人就業者の割合をみると、越前市が最も高く、次いで、高浜町、大野市の順。

第2章 子供のいる世帯の傾向

1 子供の数別世帯数

- ・近年、子供が2人、3人の世帯は減少傾向、子供が1人の世帯はほぼ横ばい。

2 世帯構成、夫婦の就業状況など属性別

- ・3世代世帯は核家族世帯よりも子供が多い傾向。3世代世帯は近年、減少。
- ・夫婦共働きの世帯はそれ以外の世帯に比べ、子供が多い傾向。しかし、近年、夫婦共働き世帯は減少。
- ・「妻が臨時雇用」、「妻が常雇」の世帯は子供が多く、「妻が家事」の世帯は少ない傾向。
- ・夫が週40時間以上就業している世帯は子供が多い傾向。
- ・子供の多い世帯は家の延床面積も大きい傾向。

3 子供のいない世帯

- ・子供がいない世帯は微増傾向。子供がいる世帯は減少傾向。